住民のための市政を！！

ごうつ民報

日本共産党江津市委員会
電話　５２－２６３３
ＦＡＸ　５２－７２４４
ＮＯ．２４２２
２０２０年１０月２５日

地域医療の取り組みと今後は？
済生会江津総合病院の決算状況

13日、江津市議会の地域医療対策特別委員会が開催され、済生会江津総合病院の２０１９年度の決算と今後の病院運営についての説明がありました。

コロナ禍の影響で赤字に

委員会には、済生会江津総合病院から田中増次島根県支部長・内部宏事務部長・秀浦康参事が出席し、状況を報告しました。報告では、①済生会江津総合病院の現状と決算の概要、②済生会の当面の課題、③今後の運営の方向性が説明されました。

済生会からは、医師数は過去最低の14人となっているものの、18・19年度と2年連続の黒字決算だったこと、しかし20年度はコロナ禍の影響もあって、外来患者・入院患者の減少により上半期は赤字となり、江津市からの支援で経営を維持していることが説明されました。また、医師不足や開業医の高齢化に対して、昨年立ち上げた『江津メディカルネットワーク』で、新しい医師確保に取り組んでいるとの説明もありました。

当面の課題については、10月から院内へ設置する地域包括支援センターや地域医療介護連携拠点施設の工事が始まり、「職員一同ワンチームで、安心で質の高い医療を提供できるように努力している」と説明しました。

さらに今後の運営では、コロナ対応病床（８床）を確保して、11月には屋外に発熱外来を設置し、人工呼吸器を整備するとしています。加えて、島根県が新型コロナウイルス感染の軽症・無症状者の療養施設とした江津少年自然の家に対して、看護師派遣の支援を行うとの見通しを示しました。

なお、職員への夏のボーナスについては「予算の範囲内で支給した」と報告しています。

◇◆◇◆◇◆◇

済生会では10月28日（水）に、新型コロナ感染症についての市民公開講座を行います。講師は感染管理認定看護師の恒松愛さんとなっています。

地域医療対策特別委員会とは？

２００４年に新臨床研修医制度が導入されて以降、島根県西部地域の中核病院では、特定の診療科で恒常的な医師不足が続いています。また、地域の「かかりつけ医」である開業医も高齢化が進み、後継者対策も課題となっています。

そのため、江津市議会では住民すべてが、いつでも、どこでも安心して医療を享受できるよう、医師・看護師などの医療従事者不足の解消や医療提供体制の整備充実を図る目的で、２００９年に地域医療対策特別委員会を設置。地域医療に関する調査研究が、その役割となっています。

災害から３カ月
被災地からの声

7月の豪雨災害から3カ月が経ちましたが、被災地ではいまもなお、復旧・復興への支援・取り組みの必要な状況が続いています。

現在も復旧が続く

被災地では、流出した土砂や被災家屋から出た災害ごみが撤去され、平常に戻ったかのように見えますが、いまも修繕が行われている家屋もあり、日常生活には戻れていない世帯もあります。そのため、日本共産党江津市議団では、7月の豪雨災害で大きな被害を受けた桜江町川越で、聴き取りを行いました。

被災者から寄せられた声

▼被災者生活再建支援金を申請しているが、まだ給付されない。

▼防災対策を急いでほしいが、具体的にどうなるのか説明がない。

▼「堤防建設のため」と地質調査が行われているが、なにをするつもりの調査かわからないので、今後の生活設計が立てられない。

▼国道２６１号の被災箇所がそのままで、カーブにカラーコーンが置いてある。早く修繕しないと危ない。

▼支援や補助を市へ問い合わせると「確認します」と時間がかかる。人事異動があるにしても、２年前の経験が活かされていない。

▼国道２６１号の久井谷橋に段差ができ、大型車が通るたびに騒音・振動がある。

▼前回は全壊だったが今回は半壊。そのため支援内容がちがうのに、そういった説明がない。

▼渡田のバス停付近は、被災後に県知事まで視察に来たのに、壊れたまま。倒れた街路灯はまだ使えるだろうに放置してある。

災害補修もっと早く

聴き取り後、国道２６１号や渡田バス停付近の県道を管轄する浜田県土整備事務所に確認すると、「それぞれ災害査定は済んでいますが、復旧は２６１号で年度内、渡田バス停付近は来年度の見込み」と回答。

党市議団では、もっと早期に補修を行うよう求めました。

カーブの真ん中にコーン

悩み・困りごと
ご相談ください

森川よしひで
０９０－７３７９－１５５４

多田伸治
０９０－６０１４－２２５９

むこせ慎一予定候補
石州瓦工業組合と懇談

20日、日本共産党西部地区委員長のむこせ慎一衆院島根2区予定候補と森川よしひで市議が、石州瓦工業組合を訪問し、生産状況などについて懇談しました。

3年間で出荷枚数2／3に

懇談には、石州瓦工業組合の佐々木啓隆専務理事が応じました。

石州瓦工業組合での2019年の出荷枚数は2978万枚。4508万枚だった2016年と比較して66%となっています。過去最高を記録した1995年の2億1608万枚の14%まで減っています。

出荷大幅減の要因は、需要低迷による窯業各社の倒産（07年アメックス協販、14年石州セラミカ、18年石州川上窯業）で、従業員数も95年の26%に減っています。数基あるトンネル窯の1基だけ動かすなど、5割程度の稼働のため、従業員も不補充となっています。

住宅の様式変化で瓦の採用率が半減

出荷枚数が減るもう一つの要因に、住宅の様式変化が挙げられます。

佐々木専務は「総二階の住宅が増え、下屋（げや、1階の屋根）のある家が減っていること、屋根材として粘土瓦の採用減が考えられる」としています。

以前は屋根の4～5割が粘土瓦でしたが、現在は2割程度。瓦に代わってスレートやガルバリウム鋼板の採用が増えています。

また、阪神大震災以降「重い屋根は地震に弱い」との風評が広がり、出荷量が減少。しかし、宮城県沖地震後につくられた1981年以降の耐震基準の家はほとんど倒壊せず、屋根の重さだけでなく、家全体で地震を受け止める構造ではないことが被害の原因です。

瓦業界では、防災性能を高めようと、全ての瓦を釘などで留め、地震や台風に強い施工をアピールしていますが、災害の映像では「古い家」が損壊した場面が取り上げられるため、風評を払拭できていません。

販売の努力も

組合では、大手ハウスメーカーでも使える平板瓦など新製品の開発、つながりのある工務店や瓦工事店に加え、家を建てる人（一般施主）への宣伝、行政物件への採用に力を入れています。

また窯業各社は、壁タイルや敷タイルなど新商品の開発も続けています。

災害公営住宅・応急仮設住宅に瓦が採用

2016年熊本地震の被災者向け災害公営住宅の一部に、石州瓦が採用されました。景観や遮音性・断熱性に優れ、将来的な維持費抑制が期待できるとのメリットが考慮されたものです。また、今年7月の熊本豪雨の被害に対し、熊本県が建設する応急仮設住宅にも、石州瓦の採用が決定しました。雨音を抑える遮音性に加え、九州で福岡に次ぐ出荷先であることが理由です。

佐々木専務は「応急仮設住宅はプレハブで鋼板屋根だったが、木造建築でも応急仮設の短時間での施工に使えると示せたと思う。今後は公共物件や、窯業技術を生かした新商品開発を進めたい」と話しました。

	1995年	2005年	2010年	2016年	2018年	2019年
出荷枚数（千枚）	216,085	144,483	64,952	45,089	32,066	29,780
組合員数（事業所）	25	19	8	7	6	6
従業員数（人）	1,093	855	419	337	311	284

菅新首相に異議

菅新首相が誕生して1カ月あまり。「安倍政治の継承」をうたっており、代わり映えせず、まったく期待できません。森友・加計・桜を見る会などの疑惑解明に背を向け、国民の疑問に応える姿勢が見られません。

安倍前政権は、在任最長記録の実績をつくっただけの7年8カ月でした。在任中の悪政を数えればキリがありません。

農政の問題でいうと、自民党は、日本農業のことなど一切考えていません。安倍政権はアメリカの傘の下、大枠はアメリカの強い圧力で自由貿易を推進し、必要のない農産物を大量に輸入してきました。ミニマムアクセス米はその最たるものです。トランプ米大統領言いなりの姿勢は、大統領が変わったとしても、菅首相も同じでしょう。独立国として恥ずかしい。今後、アメリカからの要求はますますエスカレートすると思われます。毅然とした姿勢が求められます。

安倍農政は、農協つぶしを強行し、金融・共済機能を壊し、農協の仕事を大商社に明け渡そうとしてきました。協同組合の破壊です。さらに、農業の大規模化・下法人化を強引に進めました。安倍政治の継承をうたう菅首相では、農政の問題だけ見ても期待できないのは明らかです。

日本は狭い国土で、さまざまな気候・風土の中でその地域にあわせて農業が営まれています。アメリカ・オーストラリアで行われている大規模農業とは相いれないのは当然です。小規模・家族農業の振興こそが日本農業の進むべき道です。

安倍首相在任中も米価が下がり続け、菅首相のもとでも歯止めがかからないでしょう。米農家は本当に大変です。どうやって暮らしていけばいいのか。これでは農家のなり手もなく、耕作放棄地も増え続けるだけです。

当座は、備蓄米の緊急買い入れなど需給対策が必要ですが、根本的には、農業を国の基幹産業として位置付け、農家が農業でやっていけるようにすることが必要です。そして、後継者が育つような施策が求められています。

農業委員　深野政勝

お悔やみ申しあげます（敬称略）

15日　花吉伸生（80）
21日　中東衆一（65）

二宮町　敬川町